

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告

No.1778前兆=2008年7月初旬以来過去例が無い長期継続の複数団塊的前兆群と複数極大を有する極めて特殊な地震前兆についての続報です。

本年04月から第5ステージに入った現在、前号の観測情報(9/2配信)で報告のとおり、前兆が一部継続していると共に、新たに八ヶ岳のCH17の基線が糸状態となる特異状態が出現したため、第5ステージ前兆群の変動形態から計算示唆された9/5-6±時期は対応地震発生時期ではなく、第6ステージに移行することにな

ることを報告させて頂きました。本日9/4夕刻時点、CH16、CH21の特異状態の他、CH17の糸状態特異は継続しておりますため、前号での見解とおり、09月下旬までの期間内に対応地震が発生する可能性は否定できることが確認できました。CH17は前号掲載波形のとおり、9/1夕刻から糸状態です。9/10前後頃まで継続し、9/5-6頃に他観測装置にも顕著特異が出現し極大となる可能性も示唆されます。仮に8/20からのCH08を初現としますと、10/5±時期も計算されますが、今後を観測しないと不明です。
続報を続けます。

本No.42続報は、本日9/4夕刻FAXで配信致しました実験観測情報3枚のうちのごく一部を掲載致しました。他の地震活動前兆等につきましては、一般公開できる状況にありませんので、公開実験参加の皆様へFAXで配信致しました以外公表できません。どうかお許し戴きたくお願い申し上げます。ご興味がおありの方、本観測研究をご支援賜れる皆様、FAXでの情報配信を行っております。地震前兆検知公開実験にご参加賜れば幸いです。FAX機をお持ちで無い場合でも、メールでFAXを受け取れるe-FAX等のサービスもある様ですので、ご検討下さい。以下は読者の皆様への簡単な付加解説です。

現在第5ステージ前兆の最後の段階認識です。このあと、数日以内に極大が観測される可能性があり、極大観測時点で第6ステージと認識されます。現在当該No.1778前兆で問題となっているのが、前兆の終息と発生時期についてです。前兆形態が過去例の無い形のため、推定が極めて難しい状況でありますことをご理解下さい。但し、領域や規模の推定に関しては、大きな変更は現在までありません。

左図は、2008年07月から現在まで続くNo.1778前兆の大まかな前兆出現形態を示す図です。●印が極大を表していますが、過去例に無い多数の極大が観測されています。ステージ3以降に出現した極大の中で、連続するウネリ変動であるPBF前兆が観測されたものの、各出現継続時間計から、規模を推定した値を入れてあります。M7後半の値が複数観測されております。

領域は岐阜中西部を含む近畿圏です。以前部分斜線で表した歪み速度分布(GPSではなく100年間の三角点測量で作成された図を基に当方で参考作成した歪み速度分布図)が正しく無い可能性もあり、現在はあくまでも可能性が考えられる推定領域全体を斜線で示し、推定領域としています。ご了承下さい。

ステージ-3以降に出現したPBF前兆の継続出現時間計より

PBF継続時間計 (h) = 断層長 (km) 経験則使用で求められる推定規模

